

検査情報月報



2012
2013
4月

横浜市衛生研究所

平成24年4月号 目次

【トピックス】

平成23年度 医動物・種類同定検査のまとめ(10～3月)	1
A平成23年度 食品等の苦情品検査(10～3月)	3
市内流通牛肉中の動物用医薬品検査.....	7
市内流通豚肉中の動物用医薬品検査.....	8
残留農薬検査(その4)	9

【感染症発生動向調査】






感染症発生動向調査委員会報告 平成24年3月	11
------------------------------	----



【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成24年3月分)	16
-------------------------------	----

平成23年度 医動物・種類同定検査のまとめ(10～3月)

医動物担当では、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成23年10月から平成24年3月の種類同定検査件数は、20件でした。内訳は昆虫類13件(コウチュウ目4件、ハチ目3件、ハエ目・カメムシ目各2件、チョウ目・アザミウマ目各1件)、その他の節足動物(クモ類)1件、その他6件でした。今回は、その中より主な事例を抜粋して紹介します。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
部屋の中で虫がみられる	 幼虫、暗褐色、約3mm	ヒメマルカツオブシムシ (コウチュウ目)	幼虫は広食性で、毛織物やかťおぶし、煮干など、動物質の乾燥食品を好むが、玄米や小麦など乾燥植物質の食品も加害する。 成虫は年1回、5、6月頃に発生する。
家具に虫がみられる	 成虫、暗赤褐色、約3mm	ケプトヒラタキクイムシ (コウチュウ目)	広葉樹や竹の乾材害虫として知られるが、乾燥植物性食品等における発生例も多い。 関東以南に分布する。世界共通種である。
部屋の中で虫がみられる	 成虫、茶褐色、約2.5mm	カドコブホソヒラタムシ (コウチュウ目)	穀粉やカビの生えた貯穀類、畳などに発生することがある。本州、九州に分布する。世界共通種である。
家の中に大量に虫がはいってくる	 ①有翅虫、黒色、約2mm  ②成虫、黒色、約1mm	① アリ類(ハチ目) ② アブラムシ類(カメムシ目) ③ コウチュウ類(コウチュウ目) ④ クロバネキノコバエ類(ハエ目) ⑤ ユスリカ類(ハエ目) ⑥ アザミウマ類(アザミウマ目)	個体数が最も多かったアリ類は、決まった時期に無数の有翅虫(雌雄成虫)が結婚飛行のため巣から飛び立つ。種類によって結婚飛行の時期は異なる。飛行を終えた雌雄成虫は、灯火、窓際に多数飛来し、不快害虫となることが多い。 なお、虫咬症の原因となる昆虫類はみられなかった。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
室内南側の窓際に小さな虫がみられる		寄生蜂の一種 (ハチ目)	寄生生活をするハチを一般的に寄生蜂という。農業上重要な天敵となっているものが多い。チョウ目、コウチュウ目、ハエ目、カメムシ目の卵や幼虫に寄生するものが多い。貯蔵食品害虫であるコクゾウやシバンムシの幼虫に寄生する種もある。ヒトを刺すことはない。
ガラス窓の近くにアリがみられる		ウメマツオオアリ (ハチ目)	樹上営巣性で、巣は立ち木の枯れ枝等にみられる。本州、四国、九州に分布する。
床下に茶色顆粒状のものがみられる		ニセコクマルハキバガ (チョウ目)	成虫の出現期は、初夏から初秋にかけて、北海道、本州にみられる。
ベランダに虫の卵のようなものが多数みられる		① カタバミ属(植物)の種子 ② カメムシ亜目(カメムシ目) ③ クモ目の一種	多年草の双子葉植物。果実は円柱状で先がとがり、成熟時には触れると、赤い種子が勢いよく弾き出る。最大1m程度までの周囲に飛ばすことができる。
浴室内で糞と思われる物質がみられた		不明	昆虫類やねずみ等の糞ではなかった。

成虫、黒色、約2mm

働き蟻、黒褐色、約4mm

幼虫、乳白色、約18mm

①種子、暗褐色、約1mm

乳白色～黒褐色

【 検査研究課 医動物担当 】

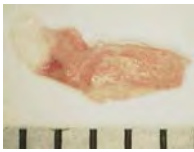


平成23年度 食品等の苦情品検査(10～3月)

-食品添加物担当で行った理化学検査-

平成23年度下半期に、福祉保健センター等に届けられた食品等に関する苦情品の中で、原因究明のために食品添加物担当へ搬入された検体は25件39検体でした。苦情の内容は様々ですが、異物混入が多く見られました。理化学検査を中心に行ったうち主な検体の検査結果は次のとおりです。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
せんべい中の異物 	せんべいを食べたところ、口の中で違和感があり、出したところ異物が出てきた。	外観 磁性 マイクロアナライザー 結果	大きさ8mm×5mm×2mm、重さ0.26gの不定形の金属の固まり。超音波洗浄で表面の汚れを除いたところ、片面はわずかに中心がへこんだ滑らかな銀色で、反対側は中心が突起しており黒ずんでいた。 磁性を認めなかった。 銀、パラジウム、銅、金などを認めた。 金銀パラジウム合金と推定された。
卵スープ中の異物(給食) 	給食の卵スープの中から、3cmほどの紐状の異物が発見された。	外観 鏡検 赤外分光分析 結果	長さ約3.5cm、重さ4mg。水色で細長い繊維状の異物。縦方向にスジがあり、所々裂けてさらに細い繊維状になっていた。 ポリプロピレンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリプロピレン樹脂の繊維と推定された。
即席めん	即席めんを開封したところ、油の古い臭いがした。調理して3名が喫食したところ、油が劣化したような味を感じた。	官能検査 酸価 過酸化価 結果 参考	4名で行ったところ、わずかに異臭を認めた。 0.31mg/g 22meq/kg 油の劣化(酸化)が進み始めているが、規制値内であった。 食品衛生法の規制値:めんに含まれる油脂の酸価が3を越え、又は過酸化価が30を越えるものであってはならない。
野菜かつ中の異物 	野菜かつを食べていたところ、合成樹脂様の異物が入っていて咽喉を痛めた。	外観 鏡検 光学顕微鏡 電子顕微鏡 リグニン反応 赤外分光分析 結果	大きさ約1.9cm×0.6cmおよび1.2cm×0.1cm、重さの合計7mg。淡黄色で薄片状の異物。 表面を拡大したところ、一方向に細かなスジを多数認めた。 異物切片をサフラニン染色したところ、細胞壁を認めた。 異物断面を拡大したところ、植物特有の管構造(維管束)を認めた。 陽性。 植物の木質部分と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 植物の破片と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
紅茶中の異物 	アイ스티ーをテイクアウト後、自宅で飲んでいたら、コップの底に黒い点々とした物が沈んでいた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 赤外分光分析 マイクロアナライザー 結果	紅茶の入った紙コップの底に、1mm以下の小さな黒い粒様のものが多数沈んでいた。 紅茶をフィルターでろ過して観察したところ、茶色の薄片を多数認めた。乾燥させると縮んで丸まった。対照品(ティーバックの紅茶葉)と類似しているが、色は若干苦情品のほうが淡かった。 対照品と類似した構造を認めた。 対照品と類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 対照品とほぼ同じ比率の炭素、酸素を認めた。 植物片と推定された。対照品の紅茶の葉と類似していた。
氷菓中の異物 	氷菓を喫食中、ガリッとしたので口から取り出したところ、鉋物様の半透明の異物が出てきた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 結果	大きさ5.3mm×3.4mm、3.1mm×1.9mm、重さ15.5mg、3.2mg。半透明で白色～淡黄色の硬い不定形な固まり2個。 表面には細かな凹凸があり、辺縁には滑らかな部分と角ばった部分があり、一部茶色っぽく着色した箇所を認めた。 拡大した表面は比較的均一であったが、断面には2成分が混ざり合った形態が見られた。 酸素、炭素、ケイ素と微量のフッ素を認めた。 ポリメタクリル酸メチルと二酸化ケイ素の赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリメタクリル酸メチルと二酸化ケイ素の混合物と推定された。
油揚げ中の異物(給食) 	給食の調理中に、油揚げに金属製の異物が混入しているのを見つけた。	外観 鏡検 磁性 マイクロアナライザー 結果	長さ1.0cm、幅0.5mmのゆるく波打ったリボン状の金属片。 幅は一定で、端はほぼまっすぐ切断されていた。 磁性を認めた。 鉄、クロムを認めた。 ステンレス片と推定された。
野菜スープ煮中異物(給食) 	給食の野菜スープ煮中に約5mmの針金様の金属が混入していた。	外観 鏡検 磁性 マイクロアナライザー 結果	長さ5mm、直径0.5mm、波状で針金様の金属片。 異物の端は、片方は丸みを帯びていて、反対側は垂直に切断されたようになっていた。 わずかに磁性を認めた。 鉄、クロム、ニッケルを認めた。 ステンレスの針金と推定された。なお、対照品(調理場で使用されていた破損個所があった金ザル)とは元素組成、太さおよび波の形状が異なっていた。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ヨーグルト中の異物 	ヨーグルトを食べていたところ、赤い異物を発見した。	外観 鏡検 赤外分光分析 ニンヒドリン反応 結果	大きさ5mm×2mm、薄茶色～赤茶色の、不定形の平たい物質。乾燥していると固いが、水につけると柔らかくなった。 色はまだらで、厚みの薄い部分は半透明であった。 タンパク質に類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性。 タンパク質の固まりと推定された。
餃子容器内の異物 	餃子容器内にガム状の異物が混入していた。	外観 鏡検 マイクロアナライザー 赤外分光分析 ヨウ素テンピン反応 ニンヒドリン反応 燃焼性 結果	大きさ13mm×9mm、重さ0.17g、不定形で象牙色のガム状異物。手で簡単にちぎれ、粘り気はほとんど認めなかった。 表面は全体的につややかであった。 主に、炭素、酸素、窒素などの元素を認めた。 焼餃子の成分と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性。 陽性。 加熱したところ、炭水化物を燃やしたような臭いを発し、炭化した。 小麦粉やタンパク質などが練り固まったものと推定された。
ミルクティー	ミルクティーを飲んだところ、石鹸様の異臭がした。	官能検査 pH 結果	苦情品(残品)と対照品2種類(未開封温蔵品および未開封非温蔵品)の3検体について、3名で行ったところ、苦情品と未開封温蔵品は、未開封非温蔵品と比べて風味が異なった。 苦情品は6.6、未開封温蔵品は6.5、未開封非温蔵品は6.9であった。 温蔵により乳成分が劣化して異臭を呈したものと推定された。
ケーキ中の金属様異物 	購入したケーキを食べたところ、口の中で異物を発見した。金属様の味がした。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 結果	金属光沢のある細い糸状の異物。 長さ8mm、幅0.06mmのテープ状。 表面に細かい筋を多数認めた。 アルミニウムの元素を認めた。 アルミニウムの破片と推定された。
イナダ味醂漬	スーパーで購入後、自宅で焼いて2名で一口喫食した。口にした直後から口の周りがピリピリし、唇の腫れ等の症状を呈した。	ヒスタミン	苦情品(残品)および対照品(販売店舗に残っていた未開封品)を検査したところ、苦情品から600mg/100g、対照品から350mg/100gのヒスタミンを検出した。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
水菜入りスープ中の異物 (給食) 	給食の「水菜入りスープ」からビニール片の様な異物が出てきた。	外観 赤外分光分析 結果	大きさ42mm×22mm、厚さ0.02mm、無色透明のビニール片。 両面ともポリプロピレンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリプロピレン樹脂の破片と推定された。
野菜五目煮中の異物 	スーパーで購入後、パックを開けたところ、惣菜の上に白い異物が付着していた。	外観 鏡検 赤外分光分析 結果	重さ5mg、大きさ4mm×3mmが1個、3mm×1mmが1個、1mm×1mmが3個の白くてもろい固まり。 表面はざらざらしていて、細かい凹凸を認めた。 チロシンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 チロシンの固まりと推定された。
団子中の異物 	スーパーで購入した団子に髪の毛の様な異物が付着していた。	外観 鏡検 赤外分光分析 結果	長さ57mm、太さ0.2～0.3mm、重さ3mgの糸状異物。 多数の繊維状のものが束になり、ねじれていた。水およびエタノールで洗浄した異物は、白色の繊維の集まりであった。 セルロースと類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 植物系の糸くずと推定された。
牛井中の異物 	店舗で購入した牛井を自宅で喫食中に、尖ったプラスチック状の異物を発見した。	外観 鏡検 赤外分光分析 マイクロアナライザー 結果	大きさ15mm×9mmおよび15mm×5mm、重さ0.165gおよび0.032g。淡黄色で薄片状の2個の異物。 異物表面を拡大すると、薄い層が重なった構造を認めた。 骨と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 リン、カルシウム等の元素を認めた。 異物は、骨の破片と推定された。
牛スジ肉中の異物 	真空パックの「牛スジ肉」中に黒い体毛様異物が混入していた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 結果	長さ6cm、太さ0.06mm～0.08mm、黒色の毛様異物。 片側先端は切断されており、もう片側は針状に細くなっていた。 横行波状の小皮紋理(キューティクル)を認めた。また、断面には髓を認めなかった。 ヒトの毛と推定された。

【 検査研究課 食品添加物担当 】



市内流通牛肉中の動物用医薬品検査



平成23年8月及び平成24年2月に食品専門監視班が収去した、市内に流通する牛肉の筋肉9件について、動物用医薬品の合成抗菌剤28項目の検査を行いました。また、この牛肉の脂肪9件について、内寄生虫用剤3項目の検査を行いました。

その結果、いずれの項目も不検出でした。

表 牛肉中の動物用医薬品検査結果

項目名	件数	検出件数	検査結果	基準値	検出限界
(筋肉)					
【合成抗菌剤】					
エンロフロキサシン(シプロフロキサシンを含む)	9	0	N.D.	0.05 以下	0.005
オキシリニック酸	9	0	N.D.	0.1 以下	0.01
オフロキサシン	9	0	N.D.	含有しないこと	0.01
オルピフロキサシン	9	0	N.D.	0.02 以下	0.01
オルメトプリム	9	0	N.D.	0.02 以下	0.02
クロピドール	9	0	N.D.	0.2 以下	0.01
サラフロキサシン	9	0	N.D.	含有しないこと	0.01
ジフロキサシン	9	0	N.D.	含有しないこと	0.01
スルファキノキサリン	9	0	N.D.	0.1 以下	0.01
スルファジアジン	9	0	N.D.	0.1 以下	0.01
スルファジミジン	9	0	N.D.	0.10 以下	0.01
スルファジメトキシシ	9	0	N.D.	0.05 以下	0.01
スルファドキシシ	9	0	N.D.	0.1 以下	0.01
スルファピリジシ	9	0	N.D.	0.1 以下	0.01
スルファメキサゾール	9	0	N.D.	含有しないこと	0.01
スルファメキシピリダジシ	9	0	N.D.	含有しないこと	0.01
スルファメラジシ	9	0	N.D.	0.1 以下	0.01
スルファモノメトキシシ	9	0	N.D.	0.01 以下	0.01
ダノフロキサシン	9	0	N.D.	0.20 以下	0.01
チアンフェニコール	9	0	N.D.	0.02 以下	0.01
トリメトプリム	9	0	N.D.	0.05 以下	0.02
ナリジクス酸	9	0	N.D.	0.03 以下	0.01
ノルフロキサシン	9	0	N.D.	含有しないこと	0.01
ピリメタミシ	9	0	N.D.	含有しないこと	0.02
ピロミド酸	9	0	N.D.	含有しないこと	0.01
フルメキシ	9	0	N.D.	0.5 以下	0.01
フロルフエニコール	9	0	N.D.	0.2 以下	0.01
マルボフロキサシン	9	0	N.D.	0.1 以下	0.01
(脂肪)					
【内寄生虫用剤】					
イベルメクチシ	9	0	N.D.	0.040 以下	0.005
エプリノメクチシ	9	0	N.D.	0.25 以下	0.005
モキシデクチシ	9	0	N.D.	0.50 以下	0.005

単位：ppm N.D.：不検出

【 検査研究課 微量汚染物担当 】



市内流通豚肉中の動物用医薬品検査



平成23年8月及び平成24年2月に食品専門監視班が収去した、市内に流通する豚肉の筋肉11件について、動物用医薬品の合成抗菌剤28項目及び内寄生虫用剤1項目の検査を行いました。また、この豚肉の脂肪11件について、内寄生虫用剤3項目の検査を行いました。

その結果、いずれの項目も不検出でした。

表 豚肉中の動物用医薬品検査結果

検査項目名	件数	検出件数	検査結果	基準値	検出限界
(筋肉)					
【合成抗菌剤】					
エンロフロキサシン(シプロフロキサシンを含む)	11	0	N.D.	0.05 以下	0.005
オキシリニック酸	11	0	N.D.	0.02 以下	0.01
オフロキサシン	11	0	N.D.	含有しないこと	0.01
オルビフロキサシン	11	0	N.D.	0.02 以下	0.01
オルメプリム	11	0	N.D.	0.05 以下	0.02
クロピドール	11	0	N.D.	0.2 以下	0.01
サラフロキサシン	11	0	N.D.	含有しないこと	0.01
ジフロキサシン	11	0	N.D.	0.02 以下	0.01
スルファキノキサリン	11	0	N.D.	含有しないこと	0.01
スルファジアジン	11	0	N.D.	0.1 以下	0.01
スルファジミジン	11	0	N.D.	0.10 以下	0.01
スルファジメキシシ	11	0	N.D.	0.2 以下	0.01
スルファドキシシ	11	0	N.D.	0.1 以下	0.01
スルファピリジン	11	0	N.D.	0.1 以下	0.01
スルファメキサゾール	11	0	N.D.	0.02 以下	0.01
スルファメキシピリダジン	11	0	N.D.	0.03 以下	0.01
スルファメラジン	11	0	N.D.	0.1 以下	0.01
スルファモノメキシシ	11	0	N.D.	0.02 以下	0.01
ダノフロキサシン	11	0	N.D.	0.10 以下	0.01
チアンフェニコール	11	0	N.D.	0.02 以下	0.01
トリメプリム	11	0	N.D.	0.1 以下	0.02
ナリジクス酸	11	0	N.D.	含有しないこと	0.01
ノルフロキサシン	11	0	N.D.	0.02 以下	0.01
ピリメタミン	11	0	N.D.	0.05 以下	0.02
ピロミド酸	11	0	N.D.	含有しないこと	0.01
フルメキン	11	0	N.D.	0.5 以下	0.01
フロルフエニコール	11	0	N.D.	0.2 以下	0.01
マルボフロキサシン	11	0	N.D.	0.05 以下	0.01
【内寄生虫用剤】					
フルベンダゾール	11	0	N.D.	0.010 以下	0.002
(脂肪)					
【内寄生虫用剤】					
イベルメクチン	11	0	N.D.	0.020 以下	0.005
エプリノメクチン	11	0	N.D.	0.01 以下	0.005
モキシデクチン	11	0	N.D.	0.01 以下	0.005

単位 : ppm N.D. : 不検出

【 検査研究課 微量汚染物担当 】

残留農薬検査(その4)

当所では、横浜市内に流通する農作物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成22年度より農作物当たりの検査項目数を追加し、検査体制を一層強化しています。

今回は、平成24年1月から3月の期間に食品専門監視班より搬入された農作物等の検査結果を報告します。

1 市内産農作物

1月に搬入されたネギ及び白菜(各3検体)の計6検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、ネギ1検体から農薬が検出されました。ただし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

2 輸入農作物

1月に搬入されたオレンジ(1検体)、かぼちゃ(3検体)、グレープフルーツ(2検体)及びスウィーティ(1検体)の計7検体について残留農薬検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、かぼちゃ1検体、グレープフルーツ1検体及びスウィーティ1検体から農薬が検出されました。ただし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

今回の検査で検出された農薬の概要については、10ページからの【農薬解説】を参考にしてください。

表1 残留農薬検査結果

(H24年1月～H24年3月)

農作物	産地	検査検体数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出値(ppm)	基準値(ppm)
市内産農作物						
ネギ	横浜市	3	1	アゾキシストロビン	0.01	10
白菜	横浜市	3	0			
輸入農作物						
オレンジ	アメリカ	1	0			
かぼちゃ	メキシコ	3	1	ミクロブタニル	0.02	1.0
グレープフルーツ	アメリカ	2	1	アゾキシストロビン	0.02	2
スウィーティ	イスラエル	1	1	クロルピリホス ピリメタニル	0.36 0.04	1 15

表2 農薬の検査項目及び検出限界(113項目)

農薬名	検出限界(ppm)	農薬名	検出限界(ppm)	農薬名	検出限界(ppm)
BHC(α、β、γ及びδの和)	0.005	シハロトリン	0.01	フェンクロルホス	0.01
DDT(DDE、DDD及びDDTの和*)	0.005	シフルトリン	0.01	フェンスルホチオン	0.01
EPN	0.01	シペルメトリン	0.01	フェンチオン	0.01
アクリナトリン	0.01	ジメチルピホス	0.01	フェントエート	0.01
アセタミプリド	0.01	ジメトエート	0.01	フェンバレレート	0.01
アゾキシストロビン	0.01	シメトリン	0.01	フェンピロキシメート	0.01
アルドリノ及びディルドリン	0.005	スルプロホス	0.01	フェンプロパトリン	0.01
イソフェンホス	0.01	ダイアジノン	0.01	ブタクロール	0.01
イソプロカルブ	0.01	チアクロプリド	0.01	ブタミホス	0.01
イプロベンホス	0.01	チアメトキサム	0.01	ブプロフェジン	0.01
イミダクロプリド	0.01	チオベンカルブ	0.01	フルジオクソニル	0.01
インドキサカルブ	0.01	チフルザミド	0.01	フルシトリネート	0.01
エスプロカルブ	0.01	テトラクロルピホス	0.01	フルトラニル	0.01
エチオン	0.01	テトラコナゾール	0.01	フルバリネート	0.01
エトプロホス	0.005	テトラジホス	0.01	プロシミドン	0.01
エトリムホス	0.01	テブコナゾール	0.01	プロチオホス	0.01

表2 農薬の検査項目及び検出限界(113項目) (続き)

農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	テブフェノジド	0.01	プロパホス	0.01
エンドリン	0.005	テブフェンピラド	0.01	プロピザミド	0.01
オキサミル	0.01	テフルトリン	0.01	プロメカルブ	0.01
カズサホス	0.01	テフルベンズロン	0.01	プロモプロピレート	0.01
カフェンストロール	0.01	デルタメトリン及びトラロメトリン	0.01	ヘキサコナゾール	0.01
カルバリル	0.01	テルブホス	0.005	ヘキサフルムロン	0.01
クレソキシムメチル	0.01	トリアジメノール	0.01	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005
クロチアニジン	0.01	トリアジメホン	0.01	ペルメトリン	0.01
クロマフェノジド	0.01	トルクロホスメチル	0.01	ペンコナゾール	0.01
クロルピリホス	0.01	パラチオン	0.01	ホサロン	0.01
クロルピリホスメチル	0.01	パラチオンメチル	0.01	ボスカリド	0.01
クロルフェナピル	0.01	ハルフェンプロックス	0.01	マラチオン	0.01
クロルフェンゾン	0.01	ビフェントリン	0.01	マイクロブタニル	0.01
クロルフェンビンホス	0.01	ピペロホス	0.01	メチダチオン	0.01
クロルプロファム	0.01	ピラクロストロビン	0.01	メキシフェノジド	0.01
クロロクスロン	0.01	ピリダフェンチオン	0.01	メトラクロール	0.01
シアノフェンホス	0.01	ピリブチカルブ	0.01	メトリブジン	0.01
シアノホス	0.01	ピリプロキシフェン	0.01	メビンホス	0.01
ジオキサベンゾホス	0.01	ピリミノバックメチル	0.01	リニューロン	0.01
ジクロフェンチオン	0.01	ピリミホスメチル	0.01	リンデン(γ-BHC)	0.002
ジクロラン	0.01	フェナリモル	0.01	ルフェヌロン	0.01
ジコホール	0.01	フェントロチオン	0.01		

※ DDTはp,p'-DDE、p,p'-DDD、o,p'-DDT及びp,p'-DDTの和

【農薬解説】

○アゾキシストロビン

『アミスター』などの商品名で販売されている殺菌剤で、多くの菌類に対し強い抗菌効果があります。

平成23年度に実施した検査において、きゅうり、なし、ブドウ(市内産)、いんげん(オマーン産)、バナナ(フィリピン産)及びブロッコリー(アメリカ産)からも検出されました。

○クロルピリホス

『ダズバン』などの商品名で販売されている殺虫剤です。果樹害虫防除用の薬剤で、特にハマキムシ類に効果があり、速効性と残効性があります。

平成23年度に実施した検査において、ホワイトアスパラガス(ペルー産)からも検出されました。

○ピリメタニル

『スカーラ』などの商品名で販売されている殺菌剤です。各作物の灰色かび病を中心に、いちごのうどんこ病やりんご等の黒色病に効果があります。

○マイクロブタニル

『ラリー』などの商品名で販売されています。野菜や果樹などのうどんこ病、さび病、黒星病などに有効的で、予防効果と治療効果を併せ持つ農薬です。

平成23年度に実施した検査において、かぼちゃ(メキシコ産)及び冷凍いんげん(タイ産)からも検出されました。

※参考文献

- ・社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2011年版
- ・農薬残留分析法研究班、最新農薬の残留分析法(改訂版)
- ・農林水産消費安全技術センター及び各農薬製造会社H.P.

【 検査研究課 微量汚染物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 3月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ警報が発令されていますが、報告数は徐々に減少しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。

全数把握疾患

<腸管出血性大腸菌感染症>

3件(O157 VT1VT2が2件、O111 VT1VT2が1件)の報告がありました。いずれも飲食店での喫食状況を確認しましたが、同行者等に有症状者等を認めませんでした。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

<A型肝炎>

10代の報告が1件ありました。国内での感染が推定されていますが、周囲に感染者はおらず明らかな原因は不明です。

<マラリア>

2件の熱帯熱マラリアの報告がありました。それぞれ、アフリカでの感染が推定されています。マラリアは、熱帯熱、三日熱、卵形、四日熱の4種類に分かれますが、中でも熱帯熱マラリアは短期間で重症化する危険があります。診断は血液塗抹標本をギムザ染色し、光学顕微鏡で検査する方法が一般的です。

<アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症1件の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

<後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)>

1件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

<バンコマイシン耐性腸球菌感染症>

1件の報告がありました。遺伝子型は現在検査中です。

<風しん>

2件の報告がありました。1件は10代で予防接種歴不明。発しん、発熱、リンパ節腫脹の臨床症状から診断されました。もう1件は30代で予防接種歴なし。職場の同僚が風しんであり、発しん、発熱、リンパ節腫脹を認めたことから診断されました。

定点把握疾患

平成24年2月20日から平成24年3月25日まで(平成24年第8週から平成24年第12週まで。ただし、性感染症については平成24年2月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成24年 週一月日対照表

第 8週	2月20日～26日
第 9週	2月27日～3月 4日
第10週	3月 5日～11日
第11週	3月12日～18日
第12週	3月19日～25日

1 患者定点からの情報

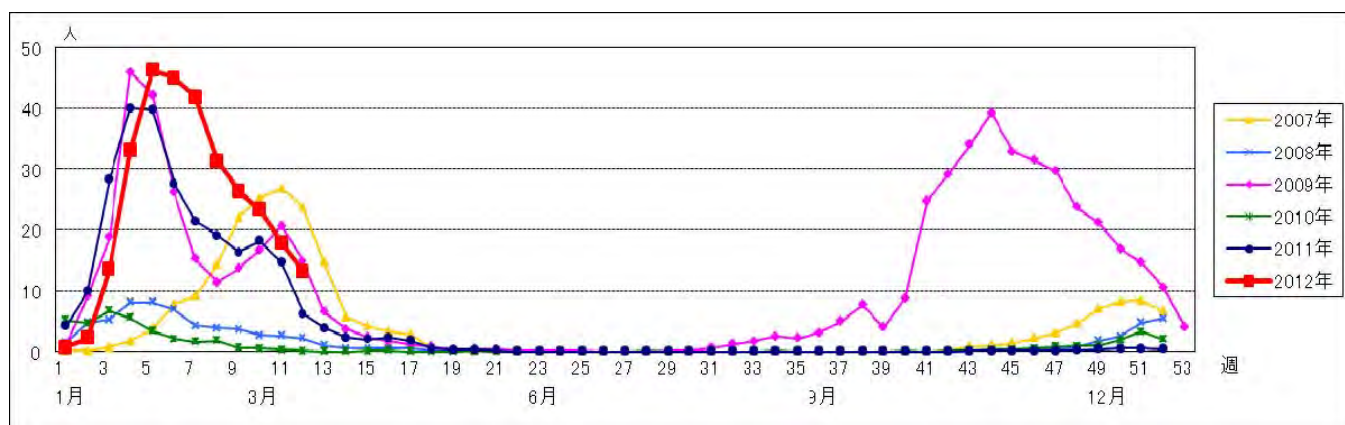
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<インフルエンザ>

第5週に市全体で定点あたり46.26と流行のピークとなり、以後徐々に減少し、第12週では13.06となっています。迅速キットの結果は徐々にB型が増加し、第12週では86.6%がB型です。横浜市衛生研究所における、定点医療機関からのウイルス検出結果では、AH3型90件(64.3%)、B型(ビクトリア系統)31件(22.1%)、B型(山形系統)18件(12.9%)、B型(解析中)1件(0.7%)でした(第12週現在)。市内で検出されたウイルスの内、AH3型89株についてワクチン株(A/Victoria/210/2009)との抗原性解析を行ったところ、HI試験で、4倍が7株(7.9%)、8倍が59株(66.3%)、16倍が23株(25.8%)でした。また、市内で検出されたB型(Victoria系統)34株についてもワクチン株(B/Brisbane/60/2008)との抗原性解析を行ったところ、同等が1株(2.9%)、2倍が11株(32.4%)、4倍が22株(64.7%)でした(第12週現在)。

◆横浜市衛生研究所:インフルエンザ流行情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2011.html>

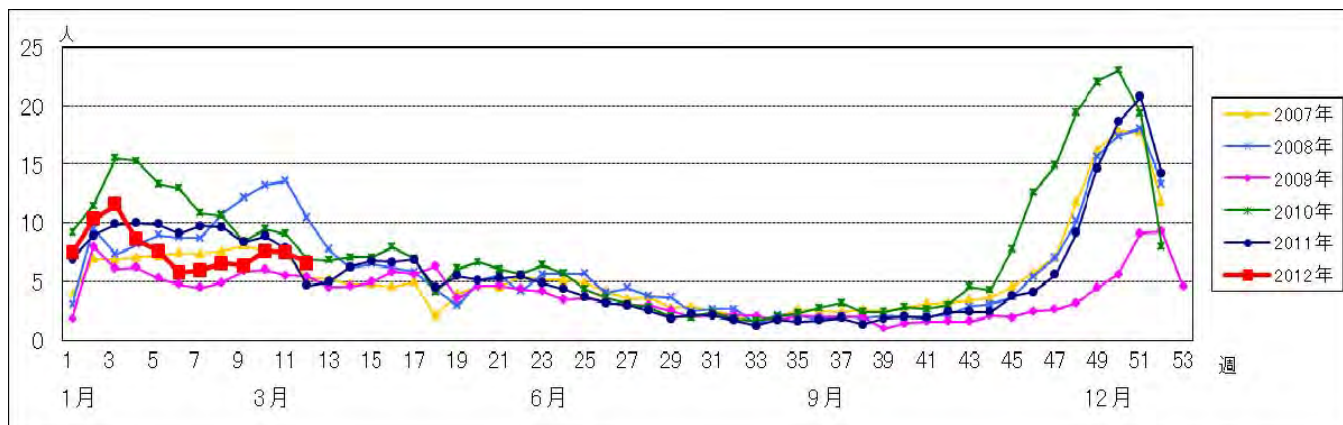


<感染性胃腸炎>

市全体では第12週では6.56と落ち着いていますが、神奈川区では第12週15.83と、終息基準値の12.00をわずかに上回っており、警報レベルが継続しています。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

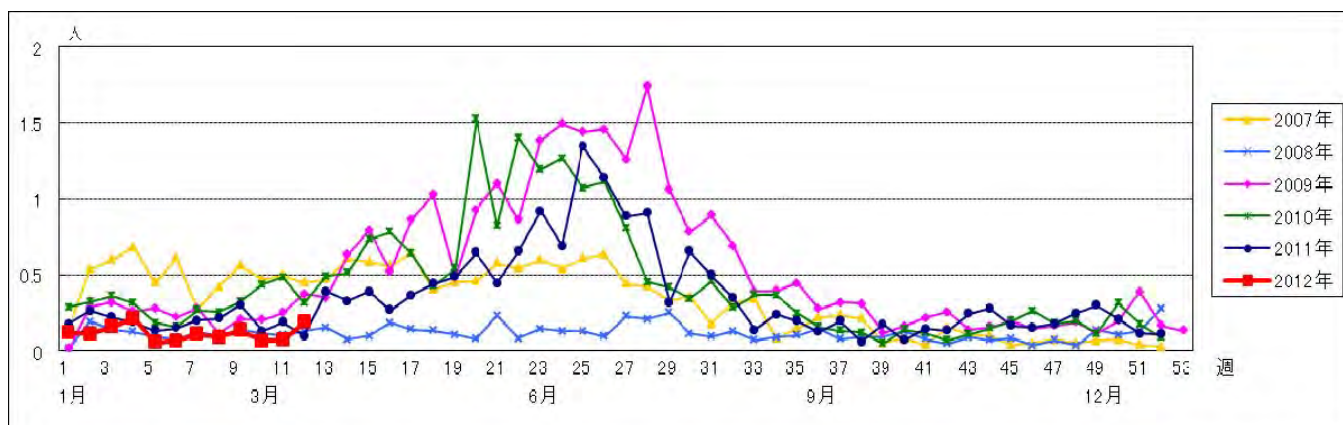
◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>



<伝染性紅斑>

市内全体では、第12週0.19と落ち着いていますが、中区2.00で警報レベルとなっています。



<性感染症>

2月は、性器クラミジア感染症は男性が11件、女性が5件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が1件です。尖圭コンジローマは男性1件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が6件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>

マイコプラズマ肺炎が全国的に増加しており、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2～0.6程度で推移していましたが、第9週0.77、第10週0.79、第11週0.79、第12週0.74と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第9週では定点あたり0.33、10週0.00、11週0.00、12週0.50と、前シーズンの第9週0.00、第10週0.00、第11週0.00、第12週0.00を上回っています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

2月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症8件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

3月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点42件(鼻咽頭ぬぐい液37件、ふん便5件)、内科定点12件(鼻咽頭ぬぐい液11件、ふん便1件)、眼科定点2件(眼脂)、基幹定点9件(鼻咽頭ぬぐい液7件、ふん便2件、髄液1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ(疑い症例を含む)27人、胃腸炎6人、下気道炎5人、上気道炎2人、発疹症、アデノウイルス扁桃炎各1人、内科定点はインフルエンザ9人、上気道炎2人、胃腸炎1人、眼科定点は流行性角結膜炎2人、基幹定点はインフルエンザ2人、肺炎、心筋炎、髄膜炎、ムンプス疑い、壊死性リンパ節炎、横紋筋融解症、不明熱各1人でした。

4月10日現在、小児科定点のインフルエンザ患者17人からインフルエンザウイルスB(以下B)型、内科定点のインフルエンザ患者6人からB型のウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点のインフルエンザ患者9人と胃腸炎患者1人からインフルエンザウイルスAH3型(以下AH3型)、下気道炎患者1人からRSウイルス、胃腸炎患者1人からノロウイルスG II型、発疹症患者1人からコクサッキーA9型、内児科定点のインフルエンザ患者1人からAH3型のウイルス遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

3月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から菌株受付が15件、定点以外の医療機関等からは4件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7、VT1VT2、O111:H-、VT1VT2)が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から12件で、A群溶血性レンサ球菌、インフルエンザ菌、黄色ブドウ球菌が検出されました。

基幹およびその他の医療機関等からは5件で、B群溶血性レンサ球菌、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、バンコマイシン耐性腸球菌、破傷風菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(3月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	3月			2012年1月～3月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						2
腸管出血性大腸菌			3			4
パラチフスA菌					2	
サルモネラ					20	1
コレラ菌						1
不検出	0	15	1	0	44	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	3月			2012年1月～3月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌				4		
T1				1		
T6				1		
T4				5		
T12	3			2		
T28				2		
T B3264				2		
B群溶血性レンサ球菌			2			11
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		1			2	
バンコマイシン耐性腸球菌			1		1	2
インフルエンザ菌	2			4		2
黄色ブドウ球菌	1			1		
破傷風菌		1			1	
不検出	6	2	0	6	5	5

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成24年2月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成24年3月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成24年2月のアクセス件数、アクセス順位及び平成24年3月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成24年2月)

平成24年2月の総アクセス数は、159,571件でした。主な内訳は、感染症67.6%、食品衛生11.4%、保健情報6.4%、検査情報月報3.7%、生活環境衛生2.1%、薬事1.0%でした。

(2) アクセス順位 (平成24年2月)

2月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、第2位が「衛生研究所トップページ」、第3位が「感染症発生状況」でした。

マイコプラズマ肺炎は、年間を通じて常にアクセス件数が多くなっています。国立感染症情報センターの報告によると、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、平成23年年末から減少傾向が続いていました。平成24年第4週(1月23日～29日)以降、0.80前後で横ばいですが、依然として過去5年間の同時期と比較して、かなり多い状態が続いています。

厚生労働省が、一般の方々向けのQ&Aをホームページに掲載しました。

マイコプラズマ肺炎に関するQ&A 平成23年12月

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou30/index.html>

2月のアクセス順位トップテンは、すべて感染症に関するものでした。これは、「インフルエンザ」や「感染性胃腸炎」等の冬の感染症の流行期のため、市内の流行状況への関心の高まりからアクセス件数が増加したものとされます。

インフルエンザは、全国、横浜市とも、平成24年第5週(1月30日～2月5日)をピークに、定点当たり報告数は減少してきています。

インフルエンザQ&A

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>

表1 平成24年2月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	6,253
2	衛生研究所トップページ	6,024
3	感染症発生状況	4,184
4	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	3,608
5	感染症情報センター	3,202
6	クロストリジウム・ディフィシル感染症について	2,891
7	インフルエンザについて	2,784
8	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	2,689
9	サイトメガロウイルス感染症について	2,616
10	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,148

データ提供:総務局IT活用推進課

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成24年3月）

平成24年3月の問い合わせは、7件でした。

表2 平成24年3月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
HIVポスターの効果について	1	健康安全部健康安全課
シロアリ駆除方法について	1	感染症・疫学情報課
農作物から取り出した化合物について	1	感染症・疫学情報課
サイトメガロウイルスについて	1	感染症・疫学情報課
当所WEBのリンクについて	1	感染症・疫学情報課
ロタウイルスワクチンについて	1	感染症・疫学情報課
パストレラ菌について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成24年3月）

平成24年3月に追加・更新した主な記事は、10件でした(表3)。

表3 平成24年3月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
3月 1日	横浜市インフルエンザ流行情報 7号	追加
3月 8日	横浜市インフルエンザ流行情報 8号	追加
3月 8日	感染症に気をつけよう(3月号)	追加
3月15日	横浜市インフルエンザ流行情報 9号	追加
3月15日	チクングニヤ熱について	更新
3月22日	横浜市インフルエンザ流行情報 10号	追加
3月23日	ベネズエラ馬脳炎・東部馬脳炎・西部馬脳炎について	更新
3月29日	横浜市インフルエンザ流行情報 11号	追加
3月29日	サルモネラ感染症(食中毒)について	更新
3月29日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成23年)	追加

【 感染症・疫学情報課 】